

認知症の症状で代表的なものは「記憶障害」ですが、加齢による「物忘れ」とは次のような違いがあります。

【加齢による物忘れと認知症の記憶障害との違い】

加齢による物忘れ	認知症の記憶障害
経験したことが思い出せない	経験したこと全体を忘れる (例) 買い物したことを忘れている
目の前の人の名前が思い出せない	目の前の人が誰かわからない (例) 自分の子どもがわからない
物の置き場所を思い出せないことがある	置き忘れ・紛失が頻繁になる (例) 鍵や通帳などをよくなる
何を食べたか思い出せない	食べたことを忘れている (例) 「ごはんはまだか」と食べたはずの食事を要求する
約束をすっかり忘れてしまった	約束したことを忘れている (例) 「そんな約束はしていない」と言ったり、全く忘れている
物覚えが悪くなったように感じる	数分前の記憶が残らない (例) ついさっきした電話の内容を忘れている
曜日や日付を間違えることがある	月や季節を間違えることがある (例) 夏なのにセーターを着たりする

★若年性認知症について★

65歳以下で発症する認知症の総称を「若年性認知症」と言います。

「認知症は高齢者だけがかかる病気」と思いがちですが、働き盛りの若い年代でも認知症になることがあります。

特にアルツハイマー病は進行性の病気なので、早めの対応で進行を遅らせ、できるだけ長くこれまでの生活を維持することが大切です。気になる症状があれば、早めに医療機関にかかりましょう。

